

「エゾシカ影響調査・簡易チェックシート」民・合同国研修会

国有林で活用している「エゾシカ影響調査・簡易チェックシート」の民有林への導入効果を高めるため、平成26年6月24日（火）浦河町の日高振興局講堂及び日高南部森林管理署西舎国有林内で調査手法に関する研修を民・国合同で実施しました。

午前中は日高振興局講堂で、「エゾシカの生態と森林被害」というテーマで、道立総研林業試験場森林資源部保護グループの講師から、①エゾシカの生態と影響調査の必要性、②樹木の食痕とエゾシカの生息状況の関係、③影響調査に基づく評価とマップ化等についての説明があり、参加者は熱心に聞き入っていました。



午後から、日高南部森林管理署西舎国有林の天然林のエゾシカの被害地にて研修を行いました。日高南部森林管理署の地元森林官から、①エゾシカ影響調査・簡易チェックシートの記載方法、②食痕の見分け方、③樹皮剥ぎ等比率の目測方法、④林床植生の変化等について、被害箇所を事例に説明しました。また、現地では、被害の多い樹種、角こすり・食害の時期、エゾシカ通過後の植生状況等から推定できる専門的な話があったほか、参加者からも「古い食害と新しい食害の見分け方はあるのか」「エゾシカが好んで食べたり、角こすりする樹種はどれか」など活発に質問が出され、各地でのエゾシカ被害の広がりを感じたところです。

最後に、日高南部森林管理署長から、傷等がある木をみたら、何の被害か、周辺被害はないかなど、まずは森林を注意深く観察することが重要。その回数が増えていくうちに調査に慣れてくるので、まずは素通りせず観察するという経験を積んでほしいと講評があり、合同研修会を終えました。

